

# CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	松本木材(株)荒尾工場	階数	地上1階、地下0階
建設地	熊本県荒尾市大島字新四ツ山1722	構造	S造
用途地域等	(白地地域)	平均居住人員	18人
省エネ:地域区分	6地域	年間使用時間	2,070時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年1月 予定	評価の実施日	2023年11月2日
敷地面積	33,058 m <sup>2</sup>	作成者	有限会社佐々木設計室一級建築士事務所佐々木 [外観図]シートへ貼り付けてください。
建築面積	2,399 m <sup>2</sup>	確認日	2023年11月8日
延床面積	2,399 m <sup>2</sup>	確認者	有限会社佐々木設計室一級建築士事務所佐々木 義則

## 2 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 0.8

■ BEE(環境効率) =  $\frac{Q(環境品質)}{L(環境負荷)}$

■ 環境効率評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	★★★★★	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	★★★★	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B+	★★★	良い	1.0以上1.5未満	—
B-	★★	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	★	劣る	0.5未満	—

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能 (ランク表示)

排出率: 81%

■ ライフサイクルCO<sub>2</sub>排出性能評価基準

判定値(排出率)	ランク表示
30%以下	☆☆☆☆☆
30%超60%以下	☆☆☆☆
60%超80%以下	☆☆☆
80%超100%以下	☆☆
100%超	☆

## 3 熊本県重点評価結果

■ 重点事項総合評価

評価点: 75

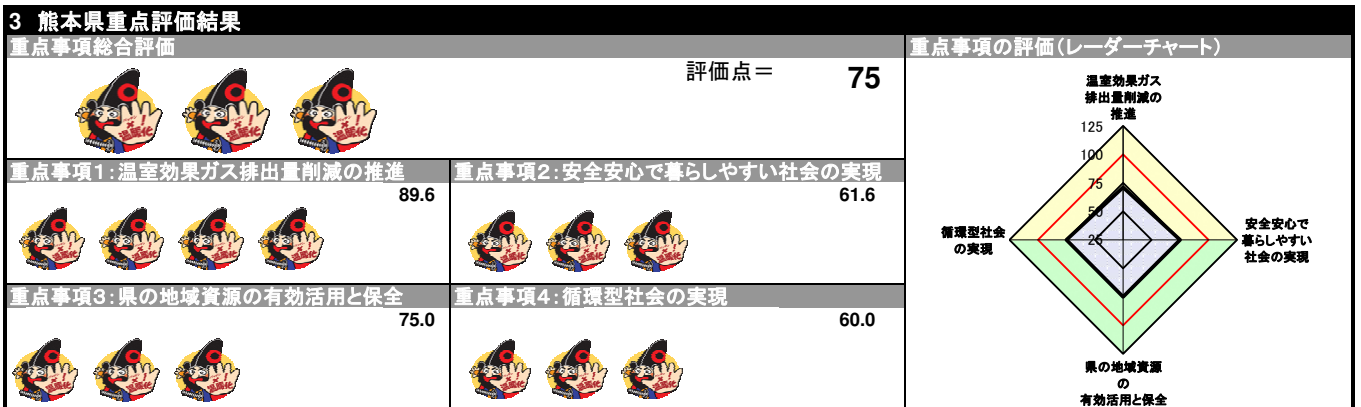
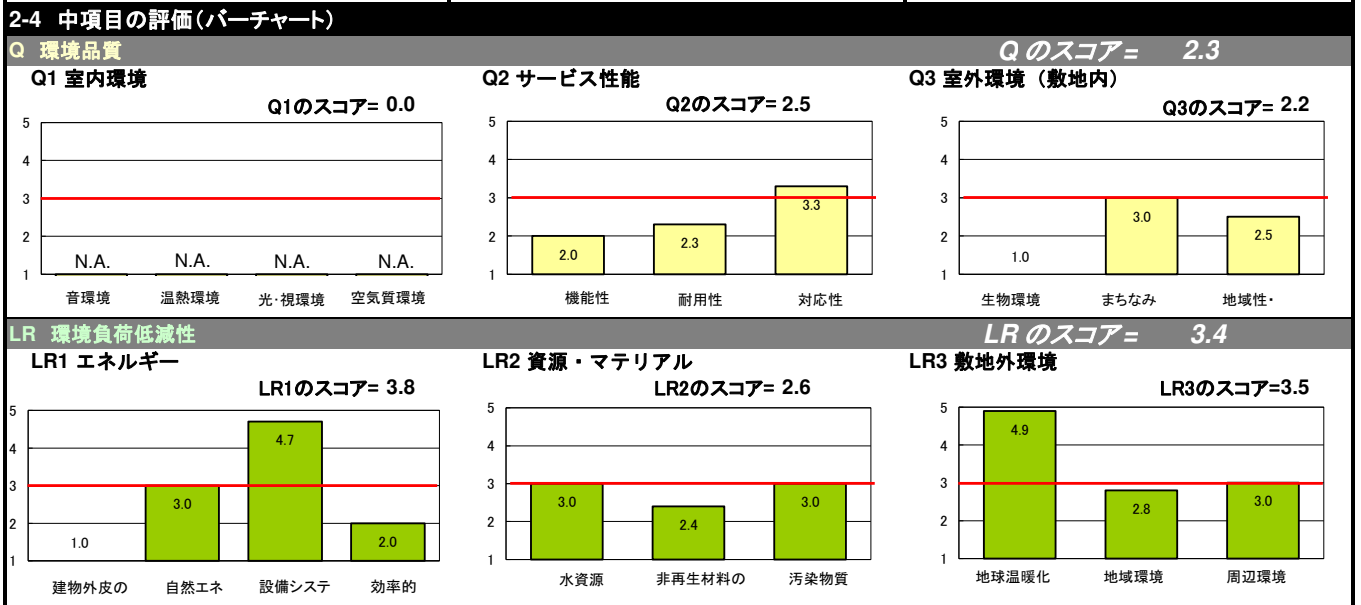
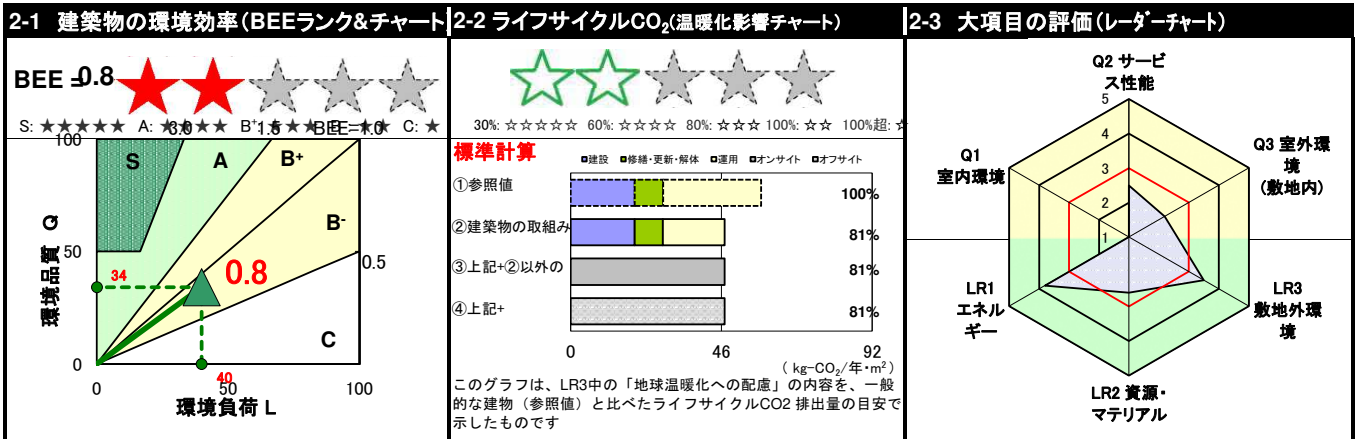
■ 熊本県重点評価基準

判定値(評価点)	ランク表示
100点以上	★★★★★
80点以上100点未満	★★★★
60点以上80点未満	★★★
40点以上60点未満	★★
40点未満	★

※評価点は、100点以上が推奨です。

重点事項	評価点
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	89.6
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	61.6
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75.0
【重点事項4】 循環型社会の実現	60.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	松本木材(株)荒尾工場	階数	地上1階、地下0階
建設地	熊本県荒尾市大島字新四ツ山1722	構造	S造
用途地域等	(白地地域)	平均居住人員	18人
省エネ: 地域区分	6地域	年間使用時間	2,070時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2024年1月 予定	評価の実施日	2023年11月2日
敷地面積	33,058 m <sup>2</sup>	作成者	有限会社佐々木設計室一級建築士事務所佐々木シートの保護を解除してください
建築面積	2,399 m <sup>2</sup>	確認日	2023年11月8日
延床面積	2,399 m <sup>2</sup>	確認者	有限会社佐々木設計室一級建築士事務所佐々木 義則



■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■ LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄				評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>										<b>2.3</b>
<b>Q1 室内環境</b>										
<b>1 音環境</b>						-	-	-	-	-
1.1 室内騒音レベル						-	-	-	-	-
1.2 遮音						-	-	-	-	-
1 開口部遮音性能						-	-	-	-	-
2 界壁遮音性能						-	-	-	-	-
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)						3.0	-	-	-	-
4 界床遮音性能(重量衝撃源)						3.0	-	-	-	-
1.3 吸音						-	-	-	-	-
<b>2 温熱環境</b>						-	-	-	-	-
2.1 室温制御						-	-	-	-	-
1 室温						-	-	-	-	-
2 外皮性能						-	-	-	-	-
3 ゾーン別制御性						-	-	-	-	-
2.2 湿度制御						-	-	-	-	-
2.3 空調方式						-	-	-	-	-
<b>3 光・視環境</b>						-	-	-	-	-
3.1 昼光利用						-	-	-	-	-
1 昼光率						-	-	-	-	-
2 方位別開口						-	-	-	-	-
3 昼光利用設備						-	-	-	-	-
3.2 グレア対策						-	-	-	-	-
1 昼光制御						-	-	-	-	-
3.3 照度						-	-	-	-	-
3.4 照明制御						-	-	-	-	-
<b>4 空気質環境</b>						-	-	-	-	-
4.1 発生源対策						-	-	-	-	-
1 化学汚染物質						-	-	-	-	-
4.2 換気						-	-	-	-	-
1 換気量						-	-	-	-	-
2 自然換気性能						-	-	-	-	-
3 取り入れ外気への配慮						-	-	-	-	-
4.3 運用管理						-	-	-	-	-
1 CO <sub>2</sub> の監視						-	-	-	-	-
2 喫煙の制御						-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>						-	0.43	-	-	<b>2.5</b>
<b>1 機能性</b>						<b>2.0</b>	0.40	-	-	<b>2.0</b>
1.1 機能性・使いやすさ						-	-	-	-	-
1 広さ・収納性						-	-	-	-	-
2 高度情報通信設備対応						-	-	-	-	-
3 バリアフリー計画						-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性						<b>2.0</b>	1.00	-	-	-
1 広さ感・景観						-	-	-	-	-
2 リフレッシュスペース						2.0	1.00	-	-	-
3 内装計画						-	-	-	-	-
1.3 維持管理						-	-	-	-	-
1 維持管理に配慮した設計						-	-	-	-	-
2 維持管理用機能の確保						-	-	-	-	-
<b>2 耐用性・信頼性</b>						<b>2.3</b>	0.30	-	-	<b>2.3</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振						<b>3.0</b>	0.50	-	-	-
1 耐震性(建物のこわれにくさ)						3.0	0.80	-	-	-
2 免震・制震・制振性能						3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数						<b>1.7</b>	0.30	-	-	-
1 躯体材料の耐用年数						3.0	0.25	-	-	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔						2.0	0.25	-	-	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔						-	-	-	-	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔						-	-	-	-	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔						-	0.25	-	-	-
6 主要設備機器の更新必要間隔						2.0	0.25	-	-	-
2.4 信頼性						<b>1.6</b>	0.20	-	-	-
1 空調・換気設備						3.0	0.33	-	-	-
2 給排水・衛生設備						-	-	-	-	-
3 電気設備						1.0	0.33	-	-	-
4 機械・配管支持方法						1.0	0.33	-	-	-
5 通信・情報設備						-	-	-	-	-

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.3</b>	0.30	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高5.7m	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比0.11	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>2.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.4</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		-	-	-	-	
2	給排水管の更新性		-	-	-	-	
3	電気配線の更新性	ケーブルは鉄骨等に取付るとともに、あらわしの仕上により、視認しやすく、更新が容易。	5.0	0.20	-	-	
4	通信配線の更新性		-	-	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.40	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.40	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.57	-	-	<b>2.2</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>							<b>3.4</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.8</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>			<b>1.0</b>	-	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.13	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>			[BEI][BEIm] = 0.63	<b>4.7</b>	0.63	-	<b>4.7</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>2.0</b>	0.25	-	-	<b>2.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>2.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		1.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>2.6</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
1.1 節水			-	-	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>2.4</b>	0.60	-	-	<b>2.4</b>
2.1 材料使用量の削減			2.0	0.11	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.22	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.22	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			1.0	0.22	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			3.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	<b>3.0</b>
3.1 有害物質を含まない材料の使用			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	1.00	-	-	
3	冷媒		-	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			LCC2スコア:3.7	<b>4.9</b>	0.33	-	<b>4.9</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.8</b>	0.33	-	-	<b>2.8</b>
2.1 大気汚染防止			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			<b>2.5</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		1.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.50	-	-	
2	振動		3.0	0.50	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	1.00	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		-	-	-	-	

■ 環境関連の配慮事項

松本木材(株)荒尾工場

印刷:モノクロ  
設定済み

・適宜、箇条書き等で記入してください。

・キーボード操作:改行の際は【Alt】キー&【Enter】キーで次の行に進みます。

計画上の配慮事項		※必ず、何らかのコメントを記入してください。
総合	効率の良い設備の導入により省エネルギー化を図り、 周辺敷地から見通しのよい外構計画によって防犯性に配慮する。	
Q1 室内環境	-	
Q2 サービス性能	建物内をあらわしの仕上とすることで、設備機器の更新性に配慮している。	
Q3 室外環境 (敷地内)	視線を遮らない外構計画により防犯性に配慮している。	
LR1 エネルギー	調光付きのハロゲン灯を採用し、長寿命化に努めた機器を選定しつつ、省エネルギー化を図っている。	
LR2 資源・マテリアル	ODP値が高い発泡剤(断熱材)を外壁に用いていない。	
LR3 敷地外環境	広告物照明を設置しない。	
その他	-	

建物名称 松本木材(株)荒尾工場

■評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

熊本県重点評価結果				総合評価点		75
重点事項				評価点	重点事項 重み係数	評価配点
重点項目(配慮項目)		スコア	重み 係数			
① 温室効果ガス排出量削減の推進				89.6	0.40	35.84
Q1-2.1.2	外皮性能	0.0	0.00			
Q1-3.1.3	昼光利用設備	0.0	0.00			
Q1-3.2.1	昼光制御	0.0	0.00			
LR1-1	建物外皮の熱負荷抑制	1.0	0.00			
LR1-2	自然エネルギー利用	3.0	0.29			
LR1-3	設備システムの高効率化	4.7	0.43			
LR2-2.1	材料使用量の削減	2.0	0.14			
LR3-2.3.3	交通負荷抑制	3.0	0.14			
② 安全安心で暮らしやすい社会の実現				61.6	0.20	12.32
Q2-1.1.3	バリアフリー計画	0.0	0.00			
Q2-2.1.1	耐震性	3.0	0.33			
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.20			
Q3-3	地域性・アメニティへの配慮	2.5	0.27			
LR3-2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.20			
③ 県の地域資源の有効活用と保全				75	0.20	15.00
Q3-2	まちなみ・景観への配慮	3.0	0.50			
LR2-1.1	節水	0.0	0.00			
LR2-1.2.1	雨水利用システム導入	3.0	0.50			
LR2-2.5	持続可能な森林から産出された木材	0.0	0.00			
④ 循環型社会の実現				60	0.20	12.00
Q2-2.2	部品・部材の耐用年数	1.7	0.30			
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.30			
LR2-2.2	既存建築躯体等の継続使用	3.0	0.10			
LR2-2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	3.0	0.15			
LR2-2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	1.0	0.15			

■評価点算出式

評価点は、以下の方法により算出しています。

◆総合評価結果

総合評価点 = (各重点事項の評価点 × 各重点事項の重み係数)の総和  
※重み係数の総和は、「1」であること。

◆各重点事項(①~④の項目)

評価点 = (各重点項目のスコア × 各重点項目の重み係数)の総和 × (5/4) × 20  
※重み係数の総和は、「1」であること。

※(5/4) × 20 : スコア4点を評価点100点に変換するスケーリング定数